

## 平成 30 年度 北九州市発達障害者支援モデル事業

## アセスメントツール開発

## I. 事業要旨

発達障害児者は、環境や支援により状態像が著しく変わることもあり、支援者が個々人の状態やニーズを明確にし、適切な支援を引き継いでいくことが重要である。そのため、市内のどの支援機関においても、同じアセスメントツールを活用できるよう展開することが望まれる。

平成 29 年度は、市内の障害福祉サービス事業所を対象にインタビュー調査を実施した。その中で、事業種や対象としている発達障害児者の年齢等によって、必要なアセスメント情報は違っているが、ある程度、共通したアセスメントツールや、アセスメント方法についての研修会等があれば活用したいと望む事業所が複数あった。また、一部ではあったが、北九州市で作成しているサポートファイル「りあん」（以下「りあん」）の有効性を感じているという意見や、「りあん」の勉強会を開催したという意見が得られた。「りあん」は、ライフステージを通じて、保護者や関係機関が本人のことを理解し、情報を共有するためのツールであり、発達障害の特性や一人一人の能力を整理することができる。そこで、今年度は、「りあん」を活用したアセスメントツールを検討することとした。

対象機関としては、放課後等デイサービス事業所を対象機関とし、学齢期のアセスメントツールについて検討を行った。近年、市内においては、放課後等デイサービス事業所が増えてきており、「学習支援」や「療育」を掲げている事業所もあり、学校と情報共有をしたり、熱心に支援に取り組まれている事業所も多い。しかし、一方で、個々人の特性に合わせた対応が、十分とは言えず、不適応を起こしているケースもある。前年度までに行ったアンケートやインタビューの結果からも、アセスメントについては、試行錯誤しているものの、まだ方法が確立していない事業所が複数あった。そこで、今年度は、放課後等デイサービス事業所の実態に即したツールを作成するため、実務者によるワーキンググループを設置し検討を行った。「りあん」の情報を、関係機関や保護者が有効に活用するために、①「りあん」の形態を大きく変えずに活用できるようにすること、②経験や知識の少ない支援者でも、発達障害の特性や個々人の状態を整理できるように、観察や情報収集のためのポイントをわかりやすく示すこと、③個別支援計画につなげられるように配慮すること、を考慮し、「りあんを活用したアセスメントの手引き」（試行版）を作成した。

ワーキンググループの参加メンバーからは、「児童発達支援管理責任者など、経験のある職員は記入できる。」「特性理解のために有効と感じる。」「これくらいの情報量は必要である。」との意見がある一方で、「新人職員や経験の少ない職員にとっては、記入量が多く、負担になるのではないかと」と、心配する意見もあった。ワーキンググループ参加メンバーに、対象児を決め、試行版を使用してもらったため、今後は、実際に活用した感想などを、メンバーより聴取する。内容を精査後、改定版を作成し、現場で活用してもらうための、

情報発信、説明会等を計画していく必要がある。

## II. 事業の実施内容

### 1. ワーキンググループ の設置

#### (1) メンバーの選定について

メンバーの選定については、昨年度実施した、障害福祉サービス事業所のインタビュー結果を参考とした。「りあん」を活用している、あるいは、今後の活用を期待している事業所や、アセスメントに対する意識が高いと考えられる事業所を選定した。

#### (2) メンバー

- ・ 放課後等デイサービス事業所 A 児童発達支援管理責任者
- ・ 放課後等デイサービス事業所 B 児童発達支援管理責任者
- ・ 放課後等デイサービス事業所 C 児童発達支援管理責任者
- ・ 障害児入所施設 D 主任支援員

#### (3) スケジュール

日付	話し合いの内容
11月7日	・趣旨説明 ①サポートファイル「りあん」の活用状況 ②「りあん」の内容について ③各事業所でのアセスメントの実情について ④アセスメントツール開発についての希望
2月15日	①「りあんを活用したアセスメントの手引き」(案)について ②個別支援計画を立てる際に、事業所で重視しているスキルや力等について
3月25日	①「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試行版)についての説明 ②対象児の検討 ③今後の予定

#### (4) ワーキンググループの意見について

メンバーの意見については、資料1-2のとおり。

##### ① 第1回ワーキンググループ話し合いの概要

「りあん」の活用状況や、「りあん」、アセスメントツールについての考えを、自由に話してもらう。独自に保護者が作成したサポートシートやサポートブックを活用した例はあるものの、「りあん」を保護者が持参し、活用した例はないということであった。「りあんには必要な情報が詰まっている」や、「りあんにあるような情報があると個別支援計画に反映しやすい」など、有効性を感じている意見がある一方で、「量が多い」ということが共通した意見であった。また、アセスメントに十分な

時間がとれない、職員の入れ変わりが多などの困難もあるということであった。

アセスメントツール開発について希望することとして、「関係機関間の連携に使えるツール」、「判断に迷った時に見て確認できるものがあるとよい」等の意見があった。

つばさからは、本人の状態を整理するためのページとして、「成長の過程1, 2」、「Ⅱ.現在の状態①」について、書き慣れていないと記入が難しい場合があるため、アセスメントツールとして活用するための、記入マニュアルを作成することについて、ワーキンググループの了承を得た。

## ② 第2回ワーキンググループ話し合いの概要

「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試案)を事前送付し、意見をもらう。同僚から意見を聴取したメンバーからは、「量や項目が多い」という意見や、主観が入りやすいために、共通のツールとして使うことや、記入のしやすさなどを心配する声があったということであった。一方で、1年目の職員から「注釈があるためにわかりやすい」という意見も得られた。

その他、「職員の専門性の向上のためには、この量は必要ではないか」や、「新任職員にとっては、このような注釈のあるアセスメントツールはわかりやすいと思う。」などの意見が得られた。

量の多さや、記入のしやすさなどについて、実際に試行版を使用してもらうことで、意見を聴取したい旨を伝え、次回のワーキンググループで試行版を提示することを確認した。

## ③ 第3回ワーキンググループ話し合いの概要

アセスメントツールの試行版を配布し、記入の仕方を説明し、各事業所での記入と、その後の意見聴取の了承を得る。対象者については、放課後等デイサービス事業所を利用している学齢期を対象とするが、障害児入所施設Dについては、入所児童を対象としていただくこととした。

サポートファイル「りあん」を、行動障害のある児童1名について、実際に記入してみたというメンバーによると、個人的にはアセスメントしやすいと感じたが、新任職員は注釈や記入例がないと難しいだろうと感じたということであった。また、相談支援事業所から情報を求められた時等に、活用の可能性があると感じているということであった。

年度初めのアセスメントに合わせて、4月末までに記入してもらい、その後、意見を聴取することを確認した。

## 2. 「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試行版)について

- (1) アセスメントツールとして活用する、サポートファイル「りあん」のページについて「成長の過程」と、「現在の状態」①を活用した。「成長の過程」は、症状が現れていた時期を斜線で記入し、本人の特性や症状についての年齢ごとの変化を追うことが

出来る。幼少期からの経過を記入することが出来るため、現在の状態のバロメーターとしたり、予防のために情報を活用することが出来る。「現在の状態」①で、状態を先に整理しておくこと、記入がしやすい。それぞれの項目については、下記の通りである。

成長の過程 1, 2

- 社会性、○コミュニケーション、○イマジネーション、○感覚過敏
- 不注意・多動性・衝動性
- その他
  - 読み・書きの困難や運動面の特性
  - ピークスキルや相貌失認などの特性
- 困った行動
  - 自傷・多少などの、行動面の問題

現在の状態 ①

- 健康、食事
- 日常生活能力（ADL や家事スキル、社会生活スキル等）、
- 人とのかかわり、コミュニケーション
- 行動特性
- 感覚
- 学習・作業能力など

(2) 「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試行版)

「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試行版)は、資料1-3の通りである。作成にあたり、以下の3点を考慮し作成した。

- ① 現在使用されている、サポートファイル「りあん」の形態を、大きく変えずに活用できるようにする。
- ② 経験や知識の少ない支援者でも、発達障害の特性や個々人の状態を整理できるように、観察や情報収集のためのポイントを、できるだけわかりやすく示す。
- ③ 個別支援計画の作成に、役立てることができる情報を記入できるようにする。ページの左側に記入用紙、右側に観察や評価のポイント等を記入した。

(3) 「りあんを活用したアセスメント用紙」(試行版)

「りあんを活用したアセスメントの用紙」(試行版)は、資料1-4の通りである。サポートファイル「りあん」の用紙をそのまま活用するが、日常生活能力については、不足していると考えられる項目を付け加えた。年齢や所属機関により、必要な項目が違うため、自由に書き加えられる欄を設けた。また、初期評価の日付、内容を更新した日付、年齢、評価者名等を記録できるようにした。

### 3. アンケートの実施

ワーキンググループに参加した事業所において、4月に、実際に試行版を用いたアセスメントを実施してもらった。それぞれの事業所で、従来より行っているアセスメントがあることや、メンバーの負担を考慮し、対象は1～2名の可能な範囲で行ってもらうこととした。アンケートを送付し、5月末までに意見を聴取する。

アンケート用紙は、資料1～5のとおりである。

### 4. 考察

ワーキンググループでの話し合いを進めて行く中で、放課後等デイサービス事業所の職員の中には、初めて福祉現場で働く方や、パートの職員なども多く、障害についての専門的な知識が殆どない職員も、少なくないことが分かった。様々な障害や状態の児童・生徒が利用しており、現場においては、安全に過ごすための見守りや、余暇活動の提供等が優先され、個々の特性を把握したり、特性に応じた活動や過ごし方を提供するという点では、まだまだ課題がある。

職員の育成という点において、ある程度、運営年数が長く、規模も大きい社会福祉法人や多機能型の事業所においては、研修会に職員を派遣したり、定期的に勉強会を開催しているが、小さな事業所においては、一部の職員が自主的に学んでいるという状況もあるようである。

また、ワーキンググループに参加した、3つの放課後等デイサービス事業所においては、全ての利用者の初期アセスメントを、1名の児童発達支援管理責任者が行っていた。児童発達支援管理責任者は初期アセスメントを元に、個別支援計画を作成し、その後は、児童発達支援管理責任者の助言の元、ケース担当者が、アセスメント内容や個別支援計画を見直している事業所と、継続して、児童発達支援管理責任者に一任されている事業所があった。児童発達支援管理責任者は、業務的な負担は大きいものの、専門的な知識が求められ、また実務の中でその専門性はさらに高まる。そのため、ワーキンググループでは、“りあんを活用したアセスメントは、児童発達支援管理責任者は可能かもしれないが、それ以外の職員にとっては、記入量が多く、ハードルが高いのではないか。”、という意見があった。

サポートファイル「りあん」においても、“ページ数や、記入量が多く、家族が記入するには、負担感がある。”という意見が多数あり、より簡素化した改定版も利用できるようにした経過がある。しかし、支援者においては、「試案」にある程度の情報をアセスメントできる専門性が必要なのではないかと考える。アセスメントツールとして、今回の試行版で使用する状態整理のためのページは一部であり、対象者によっては、書く必要がない欄もある。実際に記入することで、可能性や有効性を理解してもらえるのではないかと考える。また、一旦作成すると、少しずつ書き加えたり、更新しながら使用してもらうことができるため、負担感も少なくなる可能性がある。年齢や能力、環境等によって、必要なスキルが違うことも考えられるため、インターネット上から自由にデータを取得して、評価項目を追加したり、アレンジして使用してもらえるようにしていきたい。

今後は、アンケート結果を元に、試行版の内容を精査し、改定版を作成する予定である。改訂版を作成後は、ホームページから自由にダウンロードできるようにするとともに、市内の放課後等デイサービス事業所等に情報提供を行う。

活用方法については、研修会を開催したり、事業所に出向いて活用方法についての説明会を実施する必要があると考える。

その後、成人期のツールを作成し、就労系の相談支援事業所なども活用できるよう展開していきたい。

## ワーキンググループでの意見

## 1. 第1回 ワーキンググループ

(1) 日時 平成30年11月7日(水) 10時～11時30分

(2) 場所 レインボープラザ 会議室

## (3) 内容

- ① サポートファイル「りあん」の活用状況
- ② サポートファイル「りあん」の内容について
- ③ 各事業所でのアセスメントの実情について
- ④ アセスメントツール開発についての希望

## (4) 意見

- ① サポートファイル「りあん」の使用状況について

## &lt;放課後等デイサービス事業所 A&gt;

- ・放課後等デイサービス事業所(3事業所あり)の登録児70～80名程度の内、「りあん」を所有している人は4～5名いたが、使用はしていない。独自のサポートブックを持って来た方が1名いた。

## &lt;放課後等デイサービス事業所 B&gt;

- ・「りあん」を持って来た方はいない。独自のサポートシートを持って来た方はいた。

## &lt;放課後等デイサービス事業所 C&gt;

- ・登録児50名程度の内、「りあん」を持って来た方はいない。独自のサポートシートを持って来た方が1名いた。

## &lt;障害児入所施設 D&gt;

- ・「りあん」を持って来た方はいない。ショートステイ利用者で、独自のサポートシートやサポートブックを持って来た方はいた。
- ・高等部の入所児童は、事業所実習に行くため、必要に応じ職員がサポートブックを作成している。

- ② サポートファイル「りあん」の内容について

## &lt;放課後等デイサービス事業所 A&gt;

- ・八幡西区の事業所を中心に、ネットワーク作りと支援者の質の向上を目的に、「子どもネット北九州」を立ち上げた。「子どもネット北九州」では、「りあん」の勉強会も行っており、その中で出た意見は以下の通りである。

○記入量が多い。

○グレーゾーンと言われる子や、児童発達支援センターへの通園歴がない子が、就学後に放課後等デイサービス事業所を利用するケースが増えている。

○事業所独自のアセスメントと、「りあん」の作成を並行して行うことは、かなりの労力を必要とするため、現実的に難しい。保護者の協力を得にくい場合も多い。

・現在使用しているアセスメントツールから、新しいアセスメントツールへ切り替えることは、事業所にとってメリットがないと難しい。市のバックアップや導入のための講習会があるなどあれば、普及しやすいのではないかな。

・「りあん」は、最初書き込む作業が大変だとは思いますが、情報を上書きしていく作業は、それ程大変ではないと思う。

#### <放課後等デイサービス事業所 C>

- ・アセスメントに必要な情報が詰まっている。しかし、書く量が多く、契約時の2時間の面談の中で、「りあん」の内容を聞き取るとなると、更に時間が必要であろう。
- ・利用児が多いため、全員に「りあん」を作成することは、年間を通して難しい。
- ・アセスメントの段階で、「りあん」にある「成長過程」や「現在の状況」といった情報があると、個別支援計画に反映しやすい。

### ③ 各事業所でのアセスメントの実状について

#### <放課後等デイサービス事業所 A>

- ・児童発達支援管理責任者がアセスメントをとり、個別支援計画を作成する。
- ・アセスメントや個別支援計画は更新するが、「りあん」のように子どもの発達段階を追えるものになっているかと言われると疑問である。
- ・成人の方、特に二次障害のある方の場合に、支援者は「この方の今の状態は、子どもの頃からあったものなのか？」ということを知りたいが、保護者に聞いても覚えておらず、分からないことが多い。
- ・現在は、個別支援計画を作成するためにアセスメントをとっているという感じになっている。「りあん」の、情報を積み重ねる、情報をつなぐという目的を、支援者が理解できるとよいのではないかな。

#### <放課後等デイサービス事業所 B>

- ・児童発達支援管理責任者がアセスメントをとり、個別支援計画を作成する。
- ・職員の入れ替わりが早いという、事業所内の現状がある。
- ・相談支援専門員の紹介から利用開始となるまでの期間が短く、アセスメントの期間も短いことが多い。その場合、基本情報のみを聞き取って、利用開始となる。
- ・アセスメントでは、本人の好きなことや得意なことを重点的に聞き取って、本人の苦手や困っていることをカバーできるようにしている。
- ・保護者からの情報は、保護者の主観が入るため、事実の確認や情報の精査は必要で



あり、この作業が大変である。

<放課後等デイサービス事業所 C>

- ・サービス利用開始時は、児童発達支援管理責任者がアセスメントをとり、個別支援計画を作成する。以降は、児童発達支援管理責任者と各担当者が一緒に個別支援計画を立てる。
- ・サービス利用開始時は、保護者からの聞き取りのみでアセスメントをとるため、個別支援計画が本人の実態に合っていない場合がある。

<障害児入所施設 D>

- ・担当制をとっており、各担当者がアセスメントをとり、個別支援計画を作成する。
- ・新任職員には、スーパーバイズする職員がついて一緒に作成する。また、担当ケースを選ぶ際には難しいケースを避けるようにしている。

④ アセスメントツール開発についての希望

<放課後等デイサービス事業所 A>

- ・普及にあたっては、各事業所を巡回して、書き方の指導をしてくれるような方がいるとよいと思う。

<放課後等デイサービス事業所 B>

- ・現在、学校などの関係機関との情報共有に困難を感じている。関係機関との連携に活かせるようなアセスメントツールだとよい。

<放課後等デイサービス事業所 C>

- ・書き方や判断基準に迷った時に、見て確認できるものがあると助かる。

<障害児入所施設 D>

- ・アセスメントの中から、その時の優先課題を抽出できるシステムがあるとよいと思う。

2. 第2回ワーキンググループ

(1) 日時 平成30年2月15日(金)10時～11時30分

(2) 場所 総合療育センター 会議室

(3) 内容

- ① 「りあん」を活用したアセスメントの手引き(案)について
- ② 個別支援計画を立てる際に、事業所で重視しているスキルや力等について

(4) 意見

- ① 「りあん」を活用したアセスメントの手引き(案)について

<放課後等デイサービス事業所 A>

- ・利用児の理解や、放課後等デイサービス事業所職員の専門性の向上のためには、このアセスメントツールの量は必要ではないだろうか。
- ・放課後等デイサービス事業所で、日常生活動作を支援することは少ない。しかし、個人的には、利用児の生活支援や予後予測のためには、知っておくべき情報だと思う。
- ・「日常生活能力」のページは、経年的に記入できるようになっているため、本人の成長を追うことができる。この経過を本人へフィードバックできれば、本人の自己理解に繋がるのではないだろうか。

<放課後等デイサービス事業所 B>

- ・放課後等デイサービス事業所のガイドラインに沿っていなければならないと思う。
- ・「めばえ」（出来かかっているところ、部分的にできるところ）を、どれだけ拾えるかが大切であると考え。このアセスメントツールは注釈があるため、分かりやすい。
- ・（「学習・作業能力など」のページについて）学校でできることと、放課後等デイサービス事業所でできることは、異なると考える。学力をつけることではなく、学習の習慣をつけることや、終わったら職員に報告するといったことを目標にしている。

<放課後等デイサービス事業所 C>

- ・このアセスメントツールを、1年目の職員に見せたところ、「注釈があるため、とても分かりやすい」という意見の一方で、「量が多い」、「課題分析が難しい」との意見もあった。
- ・個人的には、新任職員には、このような注釈のあるアセスメントツールは、分かりやすいと思う。実際に使用する場合には、個人で熟読してもらった上で研修を受けると、新任職員にアセスメントの仕方を指導する職員も、指導しやすいだろう。
- ・実際に使用する場合、まずは、つばさに説明会や講習会を開いてもらえればと思う。
- ・（「学習・作業能力など」のページについて）放課後等デイサービス事業所は、学力をつける場ではないと考える。学習の内容ではなく、スケジュール（その中に学習の時間がある）を理解して行動することなど、自立的に行動できることを重視している。

<障害児入所施設 D>（欠席のため、後日聞き取る）

- ・何人かの職員にも見てもらったが、“量や項目が多い”というのが率直な感想である。
- ・「りあん」がもっとよく使われるようにするためには、記入のしやすさや見やすさも求められるだろう。
- ・アセスメントという観点で考えるならば、つける人の主観が入りやすいため、評価のための共通のツールとするには疑問が残る。

② 個別支援計画を立てる際に、事業所で重視しているスキルや力等について

<放課後等デイサービス事業所 A>

- ・学習や遊びの展開ができるかなど、全てにおいて、日常生活動作の確立がベースと考える。
- ・コミュニケーションの評価は重要であるが、難しいと感じる。特に、高機能自閉症タイプの児の評価が難しい。

<放課後等デイサービス事業所 B>

- ・児の将来を考えて、身辺自立とコミュニケーションの評価は重視している。
- ・現在は、フォーマルなアセスメントツールを使用していない。評価をグラフにするなどして保護者に提示することができれば、児の成長を共有できるかもしれないと考えている。

<放課後等デイサービス事業所 C>

- ・個別支援計画は、保護者の意見、本人の実態、担当職員の意見を統合して、サービス管理責任者が立てており、事業所として特に重視している点等はない。

<障害児入所施設 D> (ワーキンググループ欠席のため、後日聞き取る)

- ・放課後等デイサービスでは、安全に過ごすこと、余暇活動を重視している。宿題を一緒にしたり、机上課題を作成し提供したりしている。
- ・入所施設では、臨床心理士が知能検査をし、職員が Vineland-II を実施している。評価に際しては、より客観的な評価とするために、複数で話し合っている。

### 3. 第3回ワーキンググループ

(1) 日時 平成31年3月25日(金)10時~10時50分

(2) 場所 総合療育センター 会議室

(3) 内容

- ① アセスメントツールの試行版について説明し、記入を依頼する。
- ② 対象児を検討する。
- ③ 今後の予定

(4) 意見

① アセスメントツールの試行版についての説明

ワーキンググループメンバーに、実際に記入してもらい、意見聴取を行いたい

<放課後等デイサービス事業所 C>

- ・前回のワーキンググループでもらった試案を、行動障害のある児1名で実際に記入

してみた。個人的にはアセスメントしやすいと感じたが、新任職員は注釈や記入例がないと難しいだろうとも感じた。

- ・相談支援事業所から情報を求められることもあるため、そのような時にも活用できるのではないかと思う。例えば、保護者の了承を得られれば、相談支援事業所へ、このアセスメントツールをそのまま渡してもよいかもしれない。

## ② 対象児について

<放課後等デイサービス事業所 A>

- ・日頃の業務の中で、小学生と思春期に入る中学生とでは、アセスメントの視点や対応方法も異なると感じている。小学生と中学生の各1人ずつを対象としたい。

<放課後等デイサービス事業所 B>

- ・小学5年生の児（自閉症、知的障害、強度行動障害あり）を対象に考えている。

<児童入所施設D>

- ・ショートステイで利用している高校生の児で、記入してみようと思う。

## ③ 今後の予定

- ・次年度、記入したアセスメントツールを、紙媒体でつばさに返送してほしい。締切りは4月末頃とする。
- ・意見聴取のため、アンケートを作成し、つばさより送付する。

## サポートファイル「りあん」を活用したアセスメントの手引き

※「成長の過程1, 2」では、幼少期の本人の特性がどのようなものか、又どう変化したかを記入します。

**●成長の過程1** <関連の時期に斜線を記入します>

<記入例>●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人であるのを好む	/	/		

●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人であるのを好む				
2	視線が合いにくい				
3	受身的で自らは関わりを求めない				
4	積極的に関わるが一時的になりやすい				
5	友達関係を築きにくい				
6	周囲の人の感情に気づきにくい				
7	集団の中で浮きやすい				
8	常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9	身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10	口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11	自分が非難されると過剰に反応する				
12	からかわれやすい・いじめを受けやすい				

その他

●コミュニケーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	表情が乏しい・不自然				
2	言葉での指示は理解が難しい				
3	細部にこだわり難しい言葉を使う				
4	自分の興味あることを相手構わず話す				
5	言外の意味や皮肉を理解できない				
6	言葉使い・声の調子や音が独特である				
7	会話が一方通行・応答にならない				
8	共感する動作が少ない〜うなずく・身振り等				
9	状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10	独り言が多い				

その他

●イマジネーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	手を振るなどの常同行動がある				
2	物集めや情報記憶に熱中する				
3	お決まりの行動パターンがある				
4	変化を嫌い、いつも通りを好む				
5	初めての場所や人は苦手である				
6	興味を示すものに偏りがある				
7	気持ちの切り替えが苦手である				
8	突然の事や急な予定変更は混乱する				
9	物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				

その他

( ) さんのファイル 記入者氏名 ( ) 続柄 ( ) 記入年月日 ( 年 月 日 )

## ●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	耳ふさぎや音に敏(鈍)感な様子がある				
2	光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3	水などの特定の触感を好む(嫌う)				
4	物のにおいをよく嗅ぐ				
5	特定の味覚や食感を好む(嫌う)				
6	痛みに敏(鈍)感である				
7	暑さ・寒さに敏(鈍)感である				
その他					
●不注意・多動・衝動性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	うっかりミスが多い				
2	注意を集中し続けることが難しい				
3	話しかけても聞いていないようにみえる				
4	仕事をやり遂げることが難しい				
5	物事を順序立てて行うことが難しい				
6	努力を要する課題を避ける				
7	なくし物が多い				
8	注意がそれやすい				
9	忘れっぽい				
10	手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11	静かな活動に参加することが難しい				
12	じっとしていない				
13	しゃべりすぎる				
14	質問が終わる前に答えてしまう				
15	整理や片付けができない				
その他					
●その他		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	体の使い方がぎこちない				
2	手先が不器用である				
3	寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4	偏食や過食がある				
5	書くことがとても苦手である				
6	読むことがとても苦手である				
7	歩き方・姿勢の異常がある				
8	人の顔が覚えられない				
9	興味のある分野の知識が豊富である				
その他					
●困った行動		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	自分を傷つける				
2	他人に粗暴な行為をする				
3	物を壊す				
4	水分を多飲する				
5	性的な行動が逸脱している				
その他					

( ) さんのファイル 記入者氏名 ( ) 続柄 ( ) 記入年月日 ( 年 月 日 )

## II. 現在の状態 ①

### ●所属機関

所属機関名(学年)：

所属機関先：〒

### ●健康

●身長( ) cm ・ 体重( ) kg ・ 平熱( ) 度
●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患( ) > 具体的な症状と対処方法：
●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他( ) > 具体的な症状と対処方法：
●服薬の有無 < 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28 へ。 管理・服薬の仕方：
●「痛み」「不快」(頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状)の訴え方 観察のポイントと対処方法：
●治療に関しての特記(治療に関する約束や手順など)
●睡眠について

### ●食事

●食欲や偏食 ( あり ・ なし )
●好きな食べ物・飲み物(成人期の場合は、嗜好品も含む)
●苦手な食べ物・飲み物

( ) さんのファイル 記入者氏名( ) 続柄( ) 記入年月日( 年 月 日)



## 「成長の過程1、2」について

本人の発達障害の大まかな特性や、適応状態を把握出来るようになっていきます。(詳しい状態整理は、「Ⅱ現在の状態①」で行います。先に「現在の状態①」で状態整理を行うと、記入しやすいでしょう。)

発達障害のある人は、幼児期に現れていた特性が、発達とともに目立たなくなっていくことがあります。しかし、不適切な支援や環境下に置かれると調子を崩し、特性が強く現れたり、出来ていたことが出来なくなったりします。幼児期の情報、各ライフステージごとの情報を把握しておく、ご本人の今の状態を理解する手掛かりとなります。

<各カテゴリーについて>

・「社会性」、「コミュニケーション」、「イメージネーション」、「感覚過敏」は、自閉症スペクトラム(自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群)の主な特性です。

・「不注意・多動・衝動性」は、AD/HD 注意欠如多動症(注意欠陥多動性障害)の主な特性です。

・「その他」には、限局性学習症(学習障害)の特性や、運動面、知的機能のアンバランスなどの特性が含まれています。

・「困った行動」には、自傷や他傷行動などの行動問題の有無を記載します。

<記入の仕方>

・各項目にある行動の変化が見られた時期に斜線を引きます。

・気付いた事や特記事項はその他に記入します。「いつ頃」、「どのような様子があったか」を記入します。

		項目についての補足説明
●社会性	5 友達関係を築きにくい	・年上や年下の人とばかり遊び、同級生との関係を気づきにくい場合なども含まれます。
●コミュニケーション		・「独特のイントネーション」や、「エコラリア(オウム返し)」、「繰り返し同じことを聞く」などの特徴や、「言葉がない場合」や、「幼児期の言葉の遅れの有無」などは、「その他」に記載しておきましょう。
●イメージネーション	1 手を振るなどの常同行動がある	・常同行動とは、手をひらひらとさせたり、上半身を揺すったり、繰り返し飛び跳ねるなど、身体を同じやり方で繰り返し動かす行動のことをいいます。
	4 変化を嫌い、いつも通りを好む	・順番、やり方、人、場所、物の配置や物の状態の変化、衣替えなど、様々な変化が含まれます。
	6 興味を示すものに偏りがある	・年齢相応でないものや、通常は興味の対象とならないものに興味をもったり、特定のジャンルのものに強く関心を示すことなどがあります。
	7 気持ちの切り替えが苦手である	・している事を中断して、次の行動に移ることが難しい場合や、なかなか気分転換が出来ず、気持ち切り替えのに時間がかかる場合などが含まれます。
	9 物のある一部分に注意が向き、没頭してしまう	・物を本来の目的とは違うやり方で繰り返し扱うことなどを言います。(例:本のページめくりや紙破りに没頭する、エレベーターのボタンを繰り返し押す、物の一部を見つめ続けたり繰り返し触る、ビデオの特定場面を繰り返し見るなど。)・感覚あそびへの没頭がある場合は、「その他」に記載しておきましょう。

項目についての補足説明		
●感覚過敏		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚が過敏であったり、鈍感であったりします。</li> <li>・聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚のほか、気温や気圧の変化に影響を受けやすい場合や、前庭覚や固有受容覚に特徴をもつことがあります。</li> <li>・前庭覚とは、自分の身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚で、ちょっとした揺れで気分が悪くなる場合や、激しく回転しても目が回らないことなどがあります。</li> <li>・固有受容覚とは、自分の身体の位置や動き、力の入れ具合を感じる感覚です。身体をぎゅっと締め付けられるような感覚が好きな場合や、力のコントロールが出来にくく物をすぐに壊してしまう、自身のボディイメージが弱く、身体をよくぶつける事などがあります。</li> </ul>
●その他	4 偏食や過食がある	感覚過敏の「5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)」とも重なりますが、食事に関する特記(小食や、食に関する関心がないなど)がある場合は、「その他」に記載します。
	5 書くことがとても苦手である	本人の発達年齢を踏まえ、発達年齢に応じた能力を評価します。
	6 読むことがとても苦手である	
	9 興味のある分野の知識が豊富である	バスの路線や時刻表、カレンダー計算、アニメなど、突出した能力や知識(ピークスキル)を持っている場合があります。
●困った行動		・挙げられている行動以外にも、困った行動がある場合は、「その他」に記載します。

## ●日常生活能力

項目	一人でできる	部分的にできる	できない	備考（必要な援助等）
例) 服を着る		○		例) ボタン付きの服は使えない
<b>●食事</b>				
1 スプーンやフォークで食べる				
2 箸で食べる				
3 ストローやコップで飲み物を飲む				
4 ジュースなどの飲み物をコップに注ぐ				
5 口を閉じて食べる				
6				
7				
<b>●排泄</b>				
1 トイレで排尿する				
2 トイレで排便する				
3 排尿・便の後始末を適切にする				
4 生理の後始末をする				
5 おむつやパンツに大小便をしたときに、伝える				
6 尿意や便意を伝える				
7 誘導がなくても、自分でトイレに行く				
8 男性用・女性用トイレの区別が付き、使用できる				
9				
10				
<b>●セルフケア</b>				
1 顔を洗う				
2 歯磨きをする				
3 髪を整える				
4 ひげを剃る				
5 爪を切る				
6 入浴し、髪や体を洗う				
7 体を拭いたり、髪を乾かす				
8 不調を訴える				
9 汚れた衣服を自発的に着替える				
10 薬の管理をする				
11				
12				
13				
14				
15				
<b>●着脱</b>				
1 服を脱ぐ				
2 服を着る				
2-a プルオーバーや、ボタン付きのシャツを着る				
2-b スボン（スカート）を着る				
3 季節やTPOに合わせた服を選ぶ				
4 靴下や靴を履く				
5 スナップやボタンをとめる				
6 ジャンパーのファスナーを開け閉めする				
7				
8				

●家事				
1	洗濯をする			
1-a	洗濯物を取り込む			
1-b	洗濯物をたたむ			
1-c	洗濯機を使用して洗う			
1-d	洗濯物を選択方法別に仕分ける			
2	掃除をする			
2-a	テーブルを拭く			
2-b	床を帚で掃く			
2-c	床を雑巾で拭く			
2-d	掃除機をかける			
3	食器を洗う			
3-a	食後の食器を流しにさげる			
3-b	スポンジと洗剤を使用して食器を洗う			
3-d	洗った食器を拭く			
3-e	食器を所定の場所に片付ける			
4	買物をする			
4-a	硬貨や紙幣の種類がわかる			
4-b	値段を理解し、必要な金額を支払うことができる			
4-c	お釣りがわかる			
4-d	頼まれた物を買ってくることができる			
5	簡単な調理をする			
5-a	カップ麺をつくることができる			
5-b	皮むき器を使って、皮をむくことができる			
5-c	包丁を安全に使用することができる			
6	片付けができる			
6-a	鞆や持ち物を所定の場所に収納する			
6-b	脱いだ服を片付ける			
7				
8				
9				
●その他				
1	ひとりで留守番をする			
2	戸締りをする			
3	金銭管理をする			
4	公共交通機関を利用する			
5	電話をかける			
6	時計を見て時間がわかる			
7	カレンダーを見て月日や曜日がわかる			
8	スポーツや旅行など趣味の活動を行う			
9	火や刃物などの危険物を認知する			
10	自由な時間を一人で過ごす			
11	慣れた場所であれば、一人で目的地まで歩いて行くことができる			
12				
13				
14				
15				

( ) さんのファイル 記入者氏名 ( ) 続柄 ( ) 記入年月日 ( 年 月 日 )

### ●「日常生活能力」

このページでは、身辺自立や家庭生活スキル等を評価します。番号が網掛けになっている個所は、「りあん」に記載されていない項目です。その他にも、不足している項目があれば、新たに追加して記入しましょう。

#### <記入の仕方>

- ・「一人でできる」、「部分的にできる」、「できない」の3段階で評価します。
- ・「一人でできる」とは、生活の中で声掛けがなくても、自発的に行える場合にチェックします。声掛けや、部分的に手伝いが必要な場合は、「部分的にできる」にチェックし、具体的な状態や必要な支援を、備考欄に記載しておきましょう。

#### <目標設定の仕方>

- ・「できない」ことは、本人の発達段階や障害特性上、今は習得が難しい可能性があります。目標を設定する場合は、「部分的に出来る」ところの中から、少し頑張れば出来そうなところを次の目標とすると良いと思います。
- ・目標設定の際には、そのスキルを習得することで、本人や家族にとってメリットがあるのかなど、優先順位を考え、目標が多くなり過ぎないようにすることも大切です。



## ●人との関わり

●家族との関わり：
●友人（同世代の人）との関わり：
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
●知らない人との関わり：
●社会的常識・ルールを理解：

「●人とかかわり」では、対人面の様子を観察、評価します。以下のような視点を参考にしてください。

＜感情表現＞

- 感情を表しますか(笑う、泣く、叫ぶなど)。
- 自分の気持ちを適切に表現していますか(嫌な時にも笑う、いつも無表情など、気持ちを表現する方法が独特なことがあります)。
- 特定の人を好む、好意を示す(笑う、身体接触するなど)あるいは、避けることがあります。
- 身近な家族が見えないときに、探しますか。
- 身近な人の好きなことや嫌いなこと、機嫌や感情がわかりますか。

＜模倣＞

- 周りの人の行動を真似ますか。

＜友達との関係＞

- 子どもが遊んでいる様子に興味を示したり、自分から近づいていき働きかけますか。
- 友人の顔や名前を認識していますか。
- 仲の良い友だちがいたり、好意を示すことがありますか。
- 相手が困っている時に、手を差し出したり、「大丈夫？」と気遣いを示しますか。
- 相手に良いことがあった時に、「よかったね」などの肯定的な言葉がかけられますか。

## ●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける）								
実物	絵	写真	文字	言葉	ジェスチャー	その他（	）	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき							
《要求》	《要求》							
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》							
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》							
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》							

（                      ）さんのファイル 記入者氏名（                      ） 続柄（                      ） 記入年月日（                      ）年（                      ）月（                      ）日

「●コミュニケーション」では、「本人から相手に伝えるとき」(表出性のコミュニケーション)と、「相手から本人へ伝えるとき」(受容性のコミュニケーション)の評価をします。

自閉症の方の中には、文字や文章が上手に読めたり、日常的な会話に問題がないように見えても、あまり理解ができていない等のアンバランスさを持つ場合があります。

自分の気持ちを伝えられることや、相手の話がわかることは、問題行動を防止する上でも大変重要な因子となります。フォーマルな評価を参考にすることが出来ない場合も、所属機関の中でできる評価を行い、「分かる」、「伝わる」というやりとりの成功経験を重ねられるように支援していくことが大切です。

＜評価の際の視点＞

- 本人から相手に伝えるとき

＜要求・拒否の仕方＞どのような方法で相手に伝えるかを観察します。要求がうまく伝えられない場合も、選択肢を示すと、欲しいものやしたい活動を選べる場合があります。

＜注意喚起＞相手の前まで行く、相手の名前を呼ぶ(○○さん、先生など)、肩を叩く、ねえねえと言うなど、相手の注意をひくことができているかを確認します。独り言のように、相手に伝わりにくい方法で伝えている場合は、注意喚起がうまく出来ていないといえます。

＜その他＞独り言が多い、独特のイントネーション、声のボリューム調整が出来にくい、説明はできるが自分の気持ちが言えない、説明する際に時系列に話したり、誰が誰にといった説明ができないなどの特徴があれば記載します。言葉がない、叱咤の時に肝心なことを言えないなどにより、カード等を用いている場合なども記載します。

- 相手から本人に伝えるとき

＜要求＞指示やして欲しいことがあるときに、どのように伝えればよいか記載します。言葉でわかるのか、写真や、絵、具体物が良いのかは、実際に生活場面で評価することができます。評価の際は視線やジェスチャーなどのヒントを与えずに、言葉だけで伝わるかなどを実際に試してみると評価が可能です。

＜注意喚起＞名前を呼べば聞くことが出来るか、強く注意を引き付けなければならないのかなどを観察します。

＜してはいけないことの伝え方＞「だめ」などの否定的なことばだと受け入れにくい場合や、ことばではなくジェスチャーの方が良い場合などがあります。本人が理解できない場合、理解できても切り替えられない場合は、その旨を記載します。

＜その他＞文章が書けるのに、耳で聴きとること(聴覚情報処理)がうまくできない人等があります。どれくらいの文章が理解できるのかや、指示は何段階まで実行可能かなどを確認します。

## ●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：
●苦手なこと、物：
●こだわりのある物、行動：
●常同行動（いつも決まってる行動、繰り返す行動）：
●不安・恐れるもの：
●予想外の事への反応、急な変化への反応：
●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（有・無・わからない）
●寡動《行動にとりかかれぬ。その場から動かない》（有・無・わからない）
●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（有・無・わからない）
●自傷（有・無・わからない）
●他害（有・無・わからない）
●パニック（有・無・わからない）
●気になる行動（有・無・わからない）
●その他（特徴、支援のてがかり）

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

## ●行動特性

行動はできるだけ具体的に表記しましょう。いつ、どこで、どのような状態になるのか、その行動の強さ、理由が判る場合は理由も併せて記入しましょう。

### ●こだわりのある物、行動

同一性の保持といわれる特性です。同じ場所、時間、順序等で物事を行うなどにこだわることがあります。特定の物や人にこだわったり、物の置き場所、並べることなどにこだわる場合もあります。同じであることや、秩序だっている方が安心できると言われています。

### ●「常同行動」について

代表的な常同行動には、手をひらひらと振る、手を叩く、体を前後に動かす、同じ言葉を喋り続ける、同じ場所を行ったり来たりする、クルクルとその場で回る、跳びはねる」など様々です。こだわりは、本人や周囲にとって支障のないものであれば、見守っていたほうが良い場合が多いです。

### ●予想外の事への反応、急な変化への反応

予定や日課、手順や道順、教室などの場所や、担任など人の変更などが行われた時に、パニックになったり、不安な様子で、動きが止まってしまう場合などがあります。

### ●多動、不注意、衝動性(同年齢の子どもに比べて、過剰に以下のような行動が見られるかを確認します)

多動:手を離すとどこかへ行ってしまう、いつも体の一部が動いている、いつもお喋りをしているなどです。

不注意:忘れ物が多い、予定や約束を忘れる、物をよくなくす、他のことに気を取られ話を聞いていない、身体をよく物にぶつけるなどがふくまれます。

衝動性:相手が話し終わらないうちに発言してしまう、確認せずに道路を渡ったり、危険な行動をしてしまう、待つことや我慢が出来ずに行動を起こしてしまうこおなどがあります。

整理整頓や手順が身につかない等の特性があれば、併せて記載します。

### ●「寡動」～「気になる行動」

どのような行動が起こるのか、どのような時に、どれくらいの強さや頻度で生起するのか、原因や対応方法がわかる場合は併せて記載します。

### ●「気になる行動」の例

- ・特定の人に対する過度の依存がある
- ・学校や所属機関に行くのを拒否する
- ・過度に不安または神経質である
- ・理由がないのに悲しがる
- ・全体に活気や興味が乏しい
- ・かんしゃくを起こす
- ・いつも不機嫌である
- ・周囲の人を侮辱したり、からかったり、いじめたりする
- ・嘘をつく
- ・人の物や店の物を、許可なく使用したり、盗む
- ・他の人の働きかけに対して、故意に逆らったり、無視したりする
- ・知らない人に対して、過度に親しげに振る舞う
- ・性的な逸脱行動がある(露出、公的な場での自慰行為、不適切な性的交渉など)
- ・妄想や幻覚などがある
- ・周囲からの働きかけや、置かれた状況を、被害的に捉えがちである
- ・指しゃぶりや爪噛みをする
- ・チックがある
- ・奇妙な癖ややり方、話し方がある



## ●感覚

◇感覚の問題や配慮すべき点（各項目に○をつける）
●視覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：光や太陽に反応する、換気扇など回転するものを見る、鏡を見入る、など》
●聴覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：大声や泣き声を嫌う（怖がる）、嫌いな音に対して耳をふさぐ、雨の音など小さな音を騒音に感じる、など》
●触覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：人に触られることを嫌う、水圧を楽しむ、爪切りをすると痛がる、など》
●味覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：何でも口に入れたがる、異食、偏食、など》
●臭覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：物の臭いを嗅ぐ》
●温度覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：暑さや寒さに敏感・鈍感》
●痛覚（ ある ・ 特になし ・ わからない ）
《例：痛み敏感・鈍感》
●その他
《例：ぐるぐる回ることが好き、ギューッと圧迫される感覚を好む、狭い場所が落ち着く、特定の音が苦手、など》

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●感覚 感覚の過敏や鈍麻がないかを評価します。感覚面では、様々な感覚において、過敏タイプ、鈍感タイプ、感覚刺激を強く求めるタイプ、感覚刺激を回避しようとするタイプがあります。どのタイプかも併せて評価します。

### ●視覚

・視線を避ける、物や人を凝視する、暗いところを好む、明るい光を避ける（目を細めたり閉じたりする）、物がたくさんあると中から探すときにイライラすることなどもあります。  
 ・階段の上り下りをする際にためらう、色を塗ったり字を書く際に枠からはみ出る、書いた字が読みにくい場合等も、視覚情報の処理に困難がある可能性があるため、注意深く観察する必要があります。

### ●聴覚

・突然の音や大きな音に拒絶反応を示す、普通は気が付かないような音（電化製品の音など）をうるさいと感じる、音がしていると気が散って集中できない、あるいは大きな音や聞きなれない音がしても反応がない、聴覚に問題はないのに、名前を呼ばれても反応しない、聞いていないように見えることなどもあります。

### ●触覚

・べたべたした感触や汚れることを極端に嫌う、特定の生地や衣類のタグを嫌がったり、靴下を嫌がる、身体にびったり密着するような服を嫌う場合などがあります。その他、気候に関係なく薄着あるいは厚着する、身体に触られているのに気が付かない、汚れたり、濡れていても気にならない、服が裏返しやねじれていても気が付かない場合などがあります。

### ●味覚

・味に敏感で、特定の味を嫌う、特定の物しか食べたがらない（偏食）ことがあります。  
 ・食べ物ではないものをなめたり、噛んだり、飲み込んだりする（異食）ことがあります。

### ●嗅覚

・強いにおいがしているのに気づいていない様子がある、特定のにおいを非常に好む、微かなにおいでも気が付くなどがあります。

### ●温度覚

・暑さや寒さ、湿度や気圧等によって影響を受けやすい場合、気候や室温によって、イライラしたり、気分が落ち込んだりして、活動レベルが下がってしまうことがあります。

### ●痛覚

・ちょっとした傷や体の変化でも敏感に感じてしまう人や、反対に痛みや体の変化に対して鈍感な人もいます。痛み鈍感な場合は、周囲も気が付かないうちに重症化してしまうことがあります。

### ●その他

・遊具の強い揺れや回転を好む場合や、ちょっとした揺れも苦手な場合があります。揺れが苦手な人は車に乗ることが苦手なことなどがあります。  
 ・身体の使い方では、つま先で（踵を浮かし）歩く、動きがかたい、筋力が弱いように見えるなどが見られます。

・自閉症スペクトラムの方の場合、過敏があることで、疲れやすかったり、体調を崩したりして、本来の能力が発揮できないことがあります。  
 ・”苦手な感覚に慣れる”ことはなかなか難しく、無理すると、過敏が増す恐れもあるため、道具や環境の工夫により、苦手な刺激は、除去したり、低減できるような方法を用いる必要があります。  
 例) 偏食は、無理のない支援を行うことで、年齢とともに軽減されていくことも多いです。  
 聴覚過敏には、耳栓やイヤーマフ、ノイズキャンセリングヘッドフォンの使用が有効です。

**●学習・作業能力など**

◇幼児期は活動。学齢期は科目。成人期は作業・仕事として得意および不得意を記入します。	
●得意な科目・活動・作業・仕事	●不得意な科目・活動・作業・仕事
●運動能力（動作や手先の器用さ・バランスなど）	
●特に秀でた能力（記憶・音楽・絵画など）	
●落ち着く過ごし方	
●避けた方がよい関わり方など	
●困ったときや嫌なときの態度・様子	
●喜ぶこと・物・関わり方	

(                    )さんのファイル 記入者氏名(                    続柄                    ) 記入年月日(        年    月    日)

**●運動能力**

**粗大運動面**  
 ・走る、階段の上り下り、ジャングルジムなどの高所への上り下りの状態  
 ・スキップや両足ジャンプ、片足立ちがどの程度できるか。  
 ・ボールを転がす、投げる、キャッチすることができるか。 など  
**微細運動面**  
 ・小さなものを指先でつまんだり、小さなビーズを紐に通することができるか。  
 ・鉛筆の使用、ハサミの使用、その他、消しゴムや定規やコンパスなどの文具の使用について  
 ・瓶のふたや、ペットボトルのふた、缶ジュースのプルタブの開閉  
 ・紐(くつ紐、エプロンの紐など)が結べるか。 など

**●落ち着く過ごし方**

・本人が落ち着く場所や活動などを記載します。  
 ・ストレスが溜まっているときや、パニックになった時のカムダウンエリアを検討する際に有効な情報となります。

**●避けた方がよい関わり方など**

・本人が不安になったり、混乱する関り方がある場合に記載します。  
 ・大きな声や長い話し、否定的な言い方、身体に触れられることなどが苦手な場合があります。  
 ・その他、使用しない方がよいことなどがあれば記載します。

**●困ったときや嫌なときの態度・様子**

・困った時や嫌な時に、言葉や表情、行動等により、適切に感情を表現しているか観察します。自閉症の人の場合、困っていても、笑顔であったり、ジャンプをしたりして、一見楽しそうに見えることがあります。  
 ・また、周囲の人に対し、相手がわかる方法で、助けを求めているかを観察します。

**●喜ぶこと・物・関わり方**

・適切な行動を維持していくための好子として用いるためにも、重要な情報です。  
 ・言葉で誉められること、ハグや頭を撫でられることなどの身体接触が好きか、特定の物や、食べ物、活動(ぐるぐる回しやビデオ、ゲーム、公園で一緒に遊ぶ等)が与えられることを喜ぶのかなどを記載します。



# ●成長の過程 1 <関連の時期に斜線を記入します>

<記入例>●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人であるのを好む	/	/		

●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人であるのを好む				
2	視線が合いにくい				
3	受身的で自らは関わりを求めない				
4	積極的に関わるが一方的になりやすい				
5	友達関係を築きにくい				
6	周囲の人の感情に気づきにくい				
7	集団の中で浮きやすい				
8	常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9	身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10	口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11	自分が非難されると過剰に反応する				
12	からかわれやすい・いじめを受けやすい				

その他

●コミュニケーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	表情が乏しい・不自然				
2	言葉での指示は理解が難しい				
3	細部にこだわり難しい言葉を使う				
4	自分の興味あることを相手構わず話す				
5	言外の意味や皮肉を理解できない				
6	言葉使い・声の調子や音が独特である				
7	会話が一方通行・応答にならない				
8	共感する動作が少ない〜うなずく・身振り等				
9	状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10	独り言が多い				

その他

●イマジネーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	手を振るなどの常同運動がある				
2	物集めや情報記憶に熱中する				
3	お決まりの行動パターンがある				
4	変化を嫌い、いつも通りを好む				
5	初めての場所や人は苦手である				
6	興味を示すものに偏りがある				
7	気持ちの切り替えが苦手である				
8	突然の事や急な予定変更は混乱する				
9	物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				

その他

## ●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	耳ふさぎや音に敏（鈍）感な様子がある				
2	光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3	水などの特定の触感を好む（嫌う）				
4	物のおいをよく嗅ぐ				
5	特定の味覚や食感を好む（嫌う）				
6	痛みに敏（鈍）感である				
7	暑さ・寒さに敏（鈍）感である				

その他

●不注意・多動・衝動性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	うっかりミスが多い				
2	注意を集中し続けることが難しい				
3	話しかけても聞いていないようにみえる				
4	仕事をやり遂げることが難しい				
5	物事を順序立てて行うことが難しい				
6	努力を要する課題を避ける				
7	なくし物が多い				
8	注意がそれやすい				
9	忘れっぽい				
10	手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11	静かな活動に参加することが難しい				
12	じっとしていない				
13	しゃべりすぎる				
14	質問が終わる前に答えてしまう				
15	整理や片付けができない				

その他

●その他		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	体の使い方がぎこちない				
2	手先が不器用である				
3	寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4	偏食や過食がある				
5	書くことがとても苦手である				
6	読むことがとても苦手である				
7	歩き方・姿勢の異常がある				
8	人の顔が覚えられない				
9	興味のある分野の知識が豊富である				

その他

●困った行動		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	自分を傷つける				
2	他人に粗暴な行為をする				
3	物を壊す				
4	水分を多飲する				
5	性的な行動が逸脱している				

その他

## II. 現在の状態 ①

### ●所属機関

所属機関名（学年）：

所属機関先： 〒

### ●健康

●身長（            ）cm ・ 体重（            ）kg ・ 平熱（            ）度

●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患（            ） >

具体的な症状と対処方法：

●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他（            ） >

具体的な症状と対処方法：

●服薬の有無 < 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28へ。

管理・服薬の仕方：

●「痛み」「不快」（頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状）の訴え方

観察のポイントと対処方法：

●治療に関しての特記（治療に関する約束や手順など）

●睡眠について

### ●食事

●食欲や偏食（あり ・ なし）

●好きな食べ物・飲み物（成人期の場合は、嗜好品も含む）

●苦手な食べ物・飲み物

## ●日常生活能力

の項目は、りあんに追加した項目です。状態や環境に合わせて自由に変更してください

項目	一人でできる	部分的にできる	できない	備考（必要な援助等）
例) 服を着る		○		例) ボタン付きの服は使えない
<b>●食事</b>				
1	スプーンやフォークで食べる			
2	箸で食べる			
3	ストローやコップで飲み物を飲む			
4	ジュースなどの飲み物をコップに注ぐ			
5	口を閉じて食べる			
6				
7				
<b>●排泄</b>				
1	トイレで排尿する			
2	トイレで排便する			
3	排尿・便の後始末を適切にする			
4	生理の後始末をする			
5	おむつやパンツに大小便をしたときに、伝える			
6	尿意や便意を伝える			
7	誘導がなくても、自分でトイレに行く			
8	男性用・女性用トイレの区別が付き、使用できる			
9				
10				
<b>●セルフケア</b>				
1	顔を洗う			
2	歯磨きをする			
3	髪を整える			
4	ひげを剃る			
5	爪を切る			
6	入浴し、髪や体を洗う			
7	体を拭いたり、髪を乾かす			
8	不調を訴える			
9	汚れた衣服を自発的に着替える			
10	薬の管理をする			
11				
12				
<b>●着脱</b>				
1	服を脱ぐ			
2	服を着る			
2-①	フルオーバーや、ボタン付きのシャツを着る			
2-②	ズボン（スカート）を着る			
3	季節やTPOに合わせた服を選ぶ			
4	靴下や靴を履く			
5	スナップやボタンをとめる			
6	ジャンパーのファスナーを開け閉めする			
7				
8				

●家事				
1	洗濯をする			
1-a	洗濯物を取り込む			
1-b	洗濯物をたたむ			
1-c	洗濯機を使用して洗う			
1-d	洗濯物を選択方法別に仕分ける			
2	掃除をする			
2-a	テーブルを拭く			
2-b	床を帚で掃く			
2-c	床を雑巾で拭く			
2-d	掃除機をかける			
3	食器を洗う			
3-a	食後の食器を流しにさげる			
3-b	スポンジと洗剤を使用して食器を洗う			
3-d	洗った食器を拭く			
3-e	食器を所定の場所に片付ける			
4	買物をする			
4-a	硬貨や紙幣の種類がわかる			
4-b	値段を理解し、必要な金額を支払うことができる			
4-c	お釣りがわかる			
4-d	頼まれた物を買ってくることができる			
5	簡単な調理をする			
5-a	カップ麺をつくることができる			
5-b	皮むき器を使って、皮をむくことができる			
5-c	包丁を安全に使用することがえできる			
6	片付けができる			
6-a	鞆や持ち物を所定の場所に収納する			
6-b	脱いだ服を片付ける			
7				
●その他				
1	ひとりで留守番をする			
2	戸締りをする			
3	金銭管理をする			
4	公共交通機関を利用する			
5	電話をかける			
6	時計を見て時間がわかる			
7	カレンダーを見て月日や曜日がわかる			
8	スポーツや旅行など趣味の活動を行う			
9	火や刃物などの危険物を認知する			
10	自由な時間を一人で過ごす			
11	慣れた場所であれば、一人で目的地まで歩いて行くことができる			



12					
13					
14					
15					

( )さんのファイル 記入者氏名( )続柄( ) 記入年月日( 年 月 日)

## ●人との関わり

●家族との関わり：
●友人（同世代の人）との関わり：
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
●知らない人との関わり：
●社会的常識・ルールを理解：

## ●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける） 実物 絵 写真 文字 言葉 ジェスチャー その他（ ）	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき
《要求》	《要求》
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》

## ●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：


●苦手なこと、物：


●こだわりのある物、行動：


●常同行動（いつも決まってる行動、繰り返す行動）：


●不安・恐れるもの：


●予想外の事への反応、急な変化への反応：


●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（有・無・わからない）


●寡動《行動にとりかかれぬ。その場から動かない》（有・無・わからない）


●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（有・無・わからない）


●自傷（有・無・わからない）


●他害（有・無・わからない）


●パニック（有・無・わからない）


●気になる行動（有・無・わからない）


●その他（特徴、支援のてがかり）


## ●感覚

◇感覚の問題や配慮すべき点（各項目に○をつける）

●視覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：光や太陽に反応する、換気扇など回転するものを見る、鏡を見入る、など》

●聴覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：大声や泣き声を嫌う（怖がる）、嫌いな音に対して耳をふさぐ、雨の音など小さな音を騒音に感じる、など》

●触覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：人に触られることを嫌う、水圧を楽しむ、爪切りをすると痛がる、など》

●味覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：何でも口に入れたがる、異食、偏食、など》

●臭覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：物の臭いを嗅ぐ》

●温度覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：暑さや寒さに敏感・鈍感》

●痛覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：痛みに敏感・鈍感》

●その他

《例：ぐるぐる回ることが好き、ギュウーッと圧迫される感覚を好む、狭い場所が落ち着く、特定の音が苦手、など》

## ●学習・作業能力など

◇幼児期は活動。学齢期は科目。成人期は作業・仕事として得意および不得意を記入します。

●得意な科目・活動・作業・仕事

●不得意な科目・活動・作業・仕事

●運動能力（動作や手先の器用さ・バランスなど）

●特に秀でた能力（記憶・音楽・絵画など）

●落ち着く過ごし方

●避けた方がよい関わり方など

●困ったときや嫌なときの態度・様子

●喜ぶこと・物・関わり方

## 「りあんを活用したアセスメントの手引き」(試行版)使用についてのアンケート

記入日( 年 月 日) 氏名( ) 経験年数( 年)

1 記入しやすさについての感想を記入してください。

--

2 記入に要した大体の時間を記入してください。

[ ]
-----

3 記入することで、対象者についての理解が深まった点がありましたか。  
深まった点がある場合は、具体的に記入してください。

--

4 対象者を理解するために、不足している情報や、変更したほうが良い点を教えてください。  
不足している情報や変更したほうが良い点等を、具体的に記入してください。

--

5 このツールを、現場で活用することへの可能性について、ご意見をお聞かせください。

--

6 このツールを、活用する場合に、難しい点はどのようなことですか。

--

7 現場で活用する場合に、どのような支援が必要ですか。最も有効だと思うものに丸を付けてください。  
(○を記入)

① ツールの活用方法についての研修会	
② ツールの活用方法についての職場の勉強会への講師派遣	
③ つばさのホームページに、マニュアルや、記入例を掲載し、自由に閲覧できるようにする	
④ その他 (有効だと思う方法を、自由に記述ください)	